

腎友会だより

2019年度全国代表者 シンポジウム

11月23 - 24日アワーズイン阪急(東京都品川区)で全国腎臓病協議会は2019年度全国代表者シンポジウムを「一人じゃない。仲間と一緒に、助け合い」連携強化と今ある課題の解決を目指して をサブタイトルとして開催した。

○目的・全腎協は会員の減少が続いており組織対策が急務かつ重要課題である。一方少子高齢化等を背景に社会保障費が増加する中、社会保障制度の見直しが議論されており、私たちの療養環境を脅かす制度の後退が危惧される。と会議の目的が話された。

あいさつに立って馬場会長は、このたびの台風、水害に合われた方々にお見舞いを申しあげた。また「我々は生き抜くんだ」をこれからの指標とすることを述べた。

べた。続いて宮本理事より

医療改革について75歳以上窓口負担が1割より2割に位置率引き上げ、外来受診時の自己負担に上乘せする「定額負担」の導入、成分の似た市販薬がある薬を保険対象外に1の三つが検討されている。一方医療は来夏にかけて議論する方針。私たちの療養環境を脅かす制度の後退が危惧される。

今こそ会員を増やしてそれを阻止しなければ患者の負担が増えることになりま。これを主な議題に会議を行った。また少子高齢社会における介護保険制度の課題などの話があった。二日目は、組織対策の現状を主な県が発表した。

○漫画(ぜんじんきょう)をプリントして全患者に配布した。○病院のスタッフに協力してもらった。病

院関係者との話し合いを定期的に開催している。

ある病院の関係者との懇談で病院関係者は「腎友会は遊びの会でしよう」といった。「それはとんでもないと、腎友会が各種の講演会や研修会を開催し今の医療制度を守るために活動しています」それを聞いた関係者は「それは応援せえねば」と協力を約束してくれた。いずれにしてもこのままでは医療費負担は確実になる。それでも良いのかをもう一度自問する時期に来ている。



おしらせ

国会議の書込み15日まで延長

請願署名ありがとうございます。私たち！腎臓患者の生命・生活を守るための署名募金活動をする事によって、医療福祉を後退させないため、より推進させるためにも「腎疾患相互対策の早期確立」の要望活動を継続することは重要です。一人でも多くの方に署名をしてもらい運動を充実したい。

○署名は基本自筆、代筆は押印が必要。

○住所は県名から、市町村、番地を。

○住所が同じでも一人ひとり記入。同居でも同様。

○締め切りは2019年12月15日までに投かん箱にお願いいたします。

○用紙はテレビの横に置いてあります。

一人でも多くの方に
署名をお願いしましょう

自己管理に活かそう

クレアチニン(Cr)

クレアチニンは、筋肉で作られる老廃物で、腎臓から排出されます。そのため、透析を始める前は、腎機能がどのくらい働いているかを調べる指標として用いられます。透析導入後は、尿素窒素と同じように透析で老廃物を除くことができています。筋肉の量や運動量を見る指標として用いられている。筋肉の量や運動量と関係することから、筋肉量の多い人はクレアチニン値が高くなります。透析患者の場合、筋肉量が多くクレアチニン値の高い人は、予後が良いことが報告されています。透析を導入して、ある程度経過してからは、適切なたんぱく質の摂取と運動によって、ある程度高い値が望まれています。

(ぜんじんきょうNo.293
特集「知っておきたい検査数値」監修 武蔵野徳洲会
病院院長 鈴木洋通先生
(抜粋)